



「武井たか子を支える会」
生き活き政治ネット事務所
松山市衣山2-4-47早瀬ビル2F
TEL/FAX 924-2485
e-mail ikiki@takei-takako.jp



混迷を窮める年明けとなりました。国内をみれば、戦争法が着々と行使され原発が再稼働されるなか格差社会は広がり、国外をみれば、米国・トランプ大統領候補の勝利にとどめを刺す国際的な右傾化。昨年動きを振り返れば、気持ちは落ち込むばかりです。

憲法の意味を問いかけた参議院選挙の夏、その残念な結果を噛みしめたのも、昨年の特筆すべき出来事でした。しかし、大きな得るべきものがありました。様々な市民活動の場に、若い世代の人たちの姿が見られるようになったことです。時代は動いています。

去年は、ガラガラポンの年だったのかもしれない、と、楽観的な私は考えます。全てをゼロにしてやり直し。今年はそのような仕切り直しの年にしなければ・・・と心に刻み、今年もやはり年が改まったことを慶びたいと思います。明けましておめでとうございます。本年も、どうぞよろしく願いいたします。



インフォメーション

今年もさまざまな情報を発信してきます。ぜひ、ご参加ください。

◎映画「太陽の蓋」上映会

2011年3月11日の官邸や福島原発での動きを再現し、実在の人物が実名で出てくることで話題となった映画。故郷に帰れない人々が9万人もいる大きな事故を起こしても、反省の色もなく原発を再稼働させる政府。事故以来今日まで、大きく歪曲して伝えられる事実を正確に伝え直したいと、この映画は作られました。

日 時：3月18日(土) 1回目 10:00~12:10、2回目 14:00~16:10
場 所：コムズ大会議室(5F) (上映後、避難者の方のお話があります。)
チケット：1000円(大学生以上)
主 催：「福島原発事故避難者裁判を支える会・えひめ」

◎ワイワイ話そう！これが女の生きる道！？

介護や子育ての大部分を担ったり、女性であるというだけでガマンしたり、できなかったりすることもある女の人生。今に生きる私たちが、昔よりも自分の人生を選択しやすくなったのは、女性たちがその道筋を作ってくれたからです。未来の世代の女性たちが生きいきと、そして男性にとっても生きやすい社会にするために。あなたの人生について聞かせてください。ワイワイ語りあいましょう！

日 時：2017年2月11日(土) 10:30~12:00
場 所：御荘文化センター(御荘平城3063番地1)
トーク：山本まさの(埼玉県議会議員・愛南町生まれ)
金繁典子(愛南町在住)
コーディネーター：ながえ孝子
主 催：生きいきまちづくり実行委員会・問い合わせ 090-7809-0047(金繁)



◎「原発のない暮らしを求める署名」にご協力を！！

台湾が原発廃止を決めたのはホットなニュースです。安倍政権は原発輸出を成長戦略としていますが、ベトナムでは凍結、原発メーカーの一つ東芝は経営自体が揺らいでいます。アメリカでも原発事故による経済性の問題から廃炉に向かっているとのこと。残念ながら、昨年8月伊方原発は再稼働しました。福島事故で大量の放射性物質をばらまいた責任追及はあいまい、将来世代に行き場のない大量の放射性廃棄物を残す無責任さ、こんな不誠実がまかり通っていいはずありません。この時代を生きる者として、未来への責任として、共に声をあげましょう。

問合せ先：原発のない暮らしを求める県民署名の会準備会 080-9839-6653(安藤)

「なんでやねん！70年経ってもまだこれか！～女性の政治参画を増やすために～」に参加して



基調講演の嘉田由紀子前滋賀県知事と愛媛の女性たち
金繁典子（愛南町）、武井、嘉田、田渕

2016年11月5日、大阪ドーンセンターで、上記のとてもおもしろいタイトルのシンポジウムが開催されました。「市川房枝記念会女性と政治センター」と「女性参政70周年記念事業 in 関西 2016」の主催で、現在第一線で活躍されている女性議員のお話を直接聞けるということもあって、楽しみに参加させていただきました。

パネルディスカッション「70年目の女性と政治」は、越直美大津市長、武井多佳子松山市議会議員、SADL（民主主義と生活を守る有志）のじまさとこさん、3人がパネラーでした。コーディネーターは森屋裕子さん（フィフティネット）です。

越市長は、女性が活躍しやすい社会にするための様々な市の取り組みについて話されました。興味深かったのは、たった150人の登録だった、大津市の待機児童の問題を解決するために、実際は2000人の定員を増やさなければいけなかった、という点でした。保育園の定員が増えるということを知って、いままで登録をせず保育園をあきらめていた方々が、意思表示を始めた結果だそうです。また、市役所の管理職になりたがらない女性職員の社会的背景に目をむけ、調査をしました。すると、管理職になると、仕事時間の延長などが発生し、保育園の迎えや家事などに支障をきたすという声が上がってきたのです。その負担を減らす取り組みとして、週5日の勤務のうち3日を「ノー残業デー」として、男性には育休2週間を徹底したそうです。その結果、管理職試験に挑戦する女性職員が増え、女性の働きを理解し、育休を年単位で取る男性職員も増えてきたということです。

関西で改憲や安保法制問題に取り組んでいるSADL（Small Axe for Democracy and Life）の代表のじまさとこさんは、活動の中で女性議員とは言っても、男性的な考えの女性議員も多いことに気付いたことを話され、「おかあさんが赤ちゃんを抱えながら参加できる議会があれば素晴らしい」との未来展望を語られました。今はシングルであるのじまさん。私は、「あなたがその夢を実現される日を楽しみにしているよ・・・！」と、心の中で熱く思いました。

分科会は、「実践に役立つ勝つ選挙・勝てる選挙を組み立てる」に参加しました。個性ある3人の現職市議会議員の、おもに選挙活動の具体策を聞きました。明石市の男性議会議員の中西レオさんの話は、ずば抜けて面白かったです。「政治活動と選挙活動は全くの別物。議会でもいいことをやってたら選挙で通る、というのは、市民派特有の幻想」とバツサリ。自己アピールにあまり慣れていない市民派議員の方々に、「自分はこれだけのことができるよ、と有権者に知ってもらわなければ票にならない。実績アピールは非常に大事。2期目以降の安心票の流出（安心票：「私が投票しなくてもこの人は当選する」と思った有権者が、別の知り合いに投票すること。）対策として、協力者に「市民派が高順位で当選しなければ意味がない」と訴えかけることも大事。」と、3期目のご自分の市民派選挙の工夫を、出席者と分かち合っていました。参加者の中に、女性議員率50%の大阪府島本町の女性町議がいらっしや、お話を聞くことができたのは、とても有意義でした。島本町にはかつて大きな紡績工場があり、1950年代の労働争議を背景に、女性の参政は自然に行われていったというのです。現在は、女性・男性の区別なく様々な議論が行われています。地域住民の参政意識というのは、長い歴史で培われるものでもあることを実感しました。しかし、松山市も含めた一般的な都市というのは、島本町のような歴史背景を持っていない場合が多く、その際の女性を含めた社会的マイノリティの議会への進出は、これからも大きな課題であることは間違いありません。また、性的少数者（LGBT）も周知されてきている現代社会において、オトコかオンナかで区別する概念も、捨てなければならぬのかもしれない。シンポジウムで、越市長もおっしゃられていたのですが、クオータ制（人数割り当て制。議会において、男性枠、女性枠、性的少数者枠、を決めて人数調整すること。人種のダイバーシティ・多様性を進めるアメリカでは、人種間にクオータ制を取り入れている大手企業や大学もよくある。日本では見ない。）の導入が、社会的マイノリティの人権上、最も急がれる懸案の一つだと思いました。参加させてもらってありがとうございました。とても勉強になりました。

報告 田渕 紀子

“生き生き政治ネットカフェ”のご案内

とき：2月4日（土）13:00～15:00 ところ：生き生き政治ネット事務所
テーマ：2017年がスタートし、気になることも次々と。美味しいお茶でも飲みながら、おしゃべりタイムを持ちませんか？ お待ちしています。

事務所は月・水・金10:00～16:00まであいています。 ***お問い合わせ：924-2485***